とて世上ニ蘭東事ハ翁ハ志学無統と私ニ題せる冊子の録せり
後此人々是を読んて知るへし梅本編纂写挙ひて姑く蘭学
事始と題して即チ函丈へ進呈す師是を把閲しありひ翁にも
快是を傳へぬとて亦くも是を書ひかり去ぬる乙亥の年
師翁八十三之齢の卯月これを綴りたる門下の末生弓掛の義質を
拝し一を巻の首ニ記すと爾

蘭東事始上之巻

今時世間ニ蘭学と云事専ら行れ志を立る人ハ篤く学ひ無識なる人ハ漫ニ是を誇張す其初を顧ふニ昔翁か輩二三人不図此業ニ志を起せし事なるか早くも五十年ニ近し今頃かく迄ニ至るへしとは露思ハさりしニ不思議ニも盛ニなりし事なり漢学ハ千古遣唐使と云者を異朝ニ遣され或ハ英邁の僧侶抔を渡され直ニ彼国の人ニ従ひ学ハせ帰朝の後貴賤上下ニ教導せしより未しれと思ひかれハ漸ニ盛ニなりしものなるへし然るニ此蘭学ハ其始より左様の事もあらす然と成行しを思ふニ漢学ハ章を修飾せる文ゆゑ其開け遅くて此学ハ実事を輯録するものゆゑ速なるもの又ハ其新奇ニして

早稲田図書

蘭東事始　文庫08 F18

早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library

002